

A27a 全天 X 線監視装置 MAXI/GSC を用いた星の巨大フレアの探査

比嘉将也、坪井陽子、山崎恭平（中央大学）、根来均（日本大学）、中平聡志（JAXA）、松岡勝（理研）、ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI (Monitor of All-sky X-ray Image) は 1 周 90 分で地球を周回する国際宇宙ステーションに搭載され、2009 年 8 月の運用開始以降、全天モニターを続けている。MAXI に搭載されている GSC (Gas Slit Cameras: ガス比例計数管) は 2–10 keV の帯域で 1 日あたり 10–20 mCrab まで検出可能な高い感度を誇り、運用開始から 2 年間で 13 の星から計 23 個ものフレアを観測しており、2011 年秋季天文学会でその X 線の特徴について報告済みである（山崎ほか MAXI チーム）。我々は前回報告した 2011 年 8 月 15 日以降の探査を進めた。2011 年 8 月に MAXI/GSC の自動検出システム “nova search” の感度が飛躍的に向上したおかげで、前回までの報告では 1 ヶ月に約 1 個の検出頻度だったところ、現在は 1 ヶ月に約 2 個強の検出頻度となり、2012 年 6 月 8 日現在、フレアのサンプルは前回の報告とほぼ同等の 21 例増加した。特に 1 周回のみで検出される、decay time の短いサンプルが増加した。FK Aqr (BY Dra 型星)、AU Mic (BY Dra 型星)、CC Eri (BY Dra 型星)、CF Tuc (RS CVn 型星)、V1054 Oph (α^2 CVn 型星) からは MAXI/GSC として初検出であった。本発表では、新たなサンプルを含めた星の X 線フレアについて統計的議論を行う。